

里山の風便り

報 第3号
会 第3号
会 第3号
会 第3号

守る会マンスレット

可愛い3作品選出

＝森の妖精コンテスト投票＝

コンテスト募集当初はどのくらいの作品数が集まるのか、正直なところ心配な思いでした。しかし、開封してみると、私達の想定を超えた応募点数と表情豊かなキャラクター達が目の前にずらりと並んだ瞬間はとても感動的でした。どれも力作ということもあり、入選しなかった作品達にも光をあてた展開をしようとの思いは、委員会の中ではごく自然に全員一致の意見でした。

(佳作) (入賞)

根っ子 きりかぶりん もりちゃん



安原昭義
さん作



東野伸枝
さん作



太田 仁
さん作

新活動地に妖精達の心強い仲間が加わりました。生まれたての妖精達を皆様の温かい心で見守っていただき、ご一緒に大きく育てていきたいと思っております。

今後については、農業祭に向けて準備を進めています。いろいろな展開が出来そうな個性を持った妖精達です。キャラクター委員だけでなく、皆様からの広い活用意見も取り上げていきますので、多数のご意見をお待ちしています。最後になりましたが、たくさんの方々の温かいご協力で何とかここまで来ることができました。皆様、本当に有難うございました。

(中島謙一郎・キャラクター委員会一同)

会報の愛称覚えてね!

今年4月の総会において、応募のあった十点の中から「里山の風便り」が多数の得票を得て愛称に決まりました。名付け親の三浦瑞恵さんは、「愛称を考えたとき、どうしても『里山』ということばを入れたかった」とのことでした。私たちの活動が、里山の爽やかな風となって町の人々に伝わればと思います。三浦さんと次点の「こもれば」の作者の今野さんには、副賞として、椎茸のホダ木1本を贈呈しました。

消える里山の引越

平成27年春開校予定の立命館大学茨木キャンパスに茨木の里山を築きたいという先生達と我が一致した私達には、「新名神工事で消える里山の引越」(千提寺共有山→茨木キャンパス)をキャッチフレーズに、共有山の樹木を採集し、育成する活動をしています。今春の活動開始以降の流れとしては、①作業内容・スケジュールの検討、②育苗地について勉強、③植生調査、④採集する植物を



移植作業中

を覚えさせるような植物です。

マーキング、⑤採集、育苗地への移植、を行ってきました。その後は、⑤を繰り返しています。



採集した植物たち

採集している植物は、千提寺の里山を象徴し、里山に親しみを覚えさせるような植物です。

採集の目標	2,000本
9/9現在採集本数	423本

7月以降は、活動に立命館大学の先生方が参加されることもあり、今後学生の参加等、ますます活動の輪が広がる事が期待されます。(谷垣俊彦)

下半期の活動計画

ネットーな
安全で楽しい

(活動時間)	サマータイム
10時～15時	9時30分～12時30分 10時～15時
(活動日)	原則、毎月の第1・第2・第4土曜日と第3金曜日
(集合場所)	原則「里山センター」
(活動場所)	右近の森、仁の森、魁の森、竜王山西面等

◇保全活動

◇特別活動

- 10月10日・11日は、すでに募集を締め切りましたが、昨年に続き本曾赤沢ネイチャーツアーを実施します。
- 農業祭は、11月17日・18日です。日頃多忙で活動に参加できない方、久しぶりの親交を楽しんでください。(たくさんの仲間参加をお待ちします)
- 12月15日は餅つき大会です。ご家族連れどうぞ。
- 新会員歓迎ハイクは、3月9日の予定です。

◇サポートネット 茨木の活動

- 活動日…原則火曜日・木曜日
 - 観察林整備
 - 10月・11月・3月の第4木曜日と12月の第3木曜日
 - 千提寺(センター裏山) 整備11・1月の第2火曜日
 - 竜王山・鉢伏山整備10月・3月の第2火曜日
 - 「有償ボランティア」活動 今年度から実施
- 登録者には、直接ネット茨木から活動案内の連絡が入ります。(松股健男)

2012年度上半期

里山保全活動報告

いよいよ新名神高速道路関連工事が本格化して、我々の里山保全活動に影響が出てきました。

まず、希少植物保護を急ぐ事、そして我々の有力な収入源である有用木の確保をする事でした。又、初夏からナラ枯れ原因のカシノナガキクイムシの活動が活発になり、専従班を設けて調査、対策を急ぎました。この様な事を活動日に並行して行うため、本体活動が混乱して影響を受けました。

今年度の最初の計画で、集落センター横の竹林整備の完成が、作業人数減ばかりが原因ではありませんが大幅に遅延しました。

この竹林は急斜面で、2方向が交通量の多い道路上に面しています。そして、太径の孟宗竹が道路方向に偏心して、伐竹時は1本毎にロープ掛けをして伐る状況でした。又、上部で蔦が絡んだ竹が多く、道路際に多数の雑木が茂り、見張りを2人立て、車の通行を停めて



竹林整備第1期完了 お疲れ様でした！

作業をする等、大変な難作業でした。この整備は、当初第一土曜日を充てて、3ヶ月を予定していましたが、結果的には、全活動日を投入して、やっと8月11日に第1期作業を無事故で完了する事が出来ました。参加いただいた皆様、本当に、苦勞様でした。

作業内容は、活動日数11日 参加者延117名 伐竹数400本超 大楠木1本と雑木多数を整理伐しました。

この作業と並行して、御旅所近辺で松の伐木をしました。これも侵入竹林を整理伐しながらの作業でした。4月からの10回の作業で、杭用松30本と40cm径の松を中心伐木し、2mに玉切りした材を100本超、センターへ搬入しました。

新活動地は千提寺自治会の承認を受けて「右近の森」と命名しました。6〜7月に小人数で倒木処理活動をして拠点となる広場を整備し、中央広場と仮称しています。

これから森の主要地点に楽しい名前をつけたいと考えていますので、ご意見をお寄せ下さい。9月8日には、初めて活動参加者全員で入山し、倒木処理班と作業通路確保班に分かれて作業をしました。これから新活動地対策委員会がまとめた計画と、皆様の意見に従い、楽しい森づくりを始めます。どんな森にするかワクワクします。

童王山西面の整備は、「ふれあいの森構想」に基づき、市とネットの協定がある中で、当会が整備をすすめる事になりました。今年度に計画した1065地整備が、前述

の竹林等の整備遅延の影響で大幅に遅れ、8月25日に初めて入山しました。作業は周辺部の笹等の刈り込みを中心に進めています。この地区は千提寺と違い、農林課と山林地権者とのコンタクトしかありません。現在、境界線の水田の所有者が不明のため立ち入りが出来ないため、今後、作業実施の了解を得ていく必要があります。

以上、当年度上半期は、活動の多様化に対応するのに追われましたが、一定の成果をあげる事が出来たのではと考えています。今後とも、皆様の益々の参加・ご協力をお願いします。(河村政彦)

シリーズ 千提寺紹介

「右近の森」命名由来

新活動地については、昨年度に里道整備を終了し、少し遅れましたが整備活動開始を待つばかりの段階に入りました。

千提寺は、隠れキリシタンの里として歴史上貴重な地域です。

一五七三〜八五年高槻城主を務めたキリシタン大名高山右近(三島郡高山庄出身、現豊能町高山)の屋敷が、新活動地の北部一帯にかけてあったと伝えられています。

新活動地は、この高山右近の足跡を残したイトとして「右近の森」と命名しました。名前に負けない里山にしたいと思えます。皆様のご参加お待ちしております。(松田輝行)

右近の森

中央広場



特別活動報告

親子夏の工作教室&ソーメン流し

カプトムシ捕ったー！

毎年、この夏のネット茨木の行事を守る会が企画・運営しています。今年は、会員42名、一般参加者59名で暑い夏の一日を大いに楽しみました。

午前中は、2班に分かれ、森の観察とマイお椀、マイ箸作りをしました。

森に入った「探検隊」は、カシナガ捕獲用のペットボトルトラップにいたカプトムシに大喜び。最後は「炭焼きおじさん」のお話を聞きました。

お昼は、ソーメン流しで舌鼓。前日にセットした大竹樋にソーメンを流すと、大人も子供も一斉にマイ箸ですくい取り、美味しそうにツルツルつるつるで、お腹いっぱい。



削るの難しい！

上手くすくすえたよ！



午後は、水鉄砲、竹笛、ぶんぶんぜみの竹工作を行い、最後に、水鉄砲飛ばし記録会を楽しみました。初代チャンピオンの記録は、9メートルでした。(二階蔵滋)

バーベキューで締めくくり

サマータイムで猛暑を乗り切った!

9月22日、サマータイム最後の活動日。お天気にも恵まれ、汗を拭き拭き活動地から里山センターに帰り着いた会員を、山盛りの肉と野菜が迎ええました。

長谷川会長の挨拶で始まったバーベキュー大会は、猛暑の夏を無事乗り切った会員の満足感いっぱいの笑顔であふれ、楽しいひと時を過ごしました。かぼちゃや、おにぎり、お惣菜などの差し入れもあり、夏の疲れを吹き飛ばして飲んで食べました。



里山談話中



焼けたよ!

里山保全活動の安全

巨木化する日本の森林

日本の森は、有史以来、鉄の生産の為山奥の木は切り倒され(たたら製鉄)、又、家具や食器等に使用れ放置林が生まれる余地は少なかった。又、当時の農作の肥料や牛馬の飼料として草原が大切にされておられ、現在よりもはるかに草原が多かった。今の

ような森は少なかったのである(山ははげ山か松山)。ところが戦後のスギ、ヒノキ等の植林事業が放置林となり、又、薪炭として使用する事の無くなった広葉樹がそのまま大きくなっている。日本の森が過去にないくらい巨木化している。

そのため、現在、全国的に森林保全に動力機械を使用せざるを得ない状況が生じている。守る会においても例外ではなく、これを受け、動力機械の使用に耐え得るルール作りと技術の習得に努めた結果、新活動地や新実習地の整備においても絶大な威力を発揮している。しかしながら機械を使用するのは人間であり、ヒューマンエラーは必ず発生する。ましてや我々は同時進行で高齢化しており、アクセルとブレーキを踏み間違えう世代となっている。この為に里山保全活動の安全の徹底

御旅所の

ヒノキ林伐木



はあらゆる機会を通して図る必要がある。その為にはいろいろな手法が有るが、その一つに守る会の勢力を如何に定例活動に集中出来るかが大きなファクターとなる。リーダーが余裕を持って企画出来、参加者全員が安全に対し相互監視する仕組みが必要なのである。昨年末頃から新名神工事の関係で待たなしの作業が増え、又、各種の活動が同時並行で行なわれることが多く、前述の集中出来る状況に対し、いささかの不安を覚えたのは事実である。

そんな状況においても守る会は森林整備のノウハウを確実に習得しつつある。

お旅所のヒノキ伐木活動では、大径木30本を伐木し、搬出も出来た。

集落センターの竹林整備では、予測よりも長期間を要したが、無事終了した。急斜面の密生した竹林を整備した経験は初めてである。三名



集落センター前
竹林整備

一組でロープを上下二本掛けし、山側に丁寧に倒して行く作業を繰り返して、とうとう整備を完了した。活動中、メンバーが恐らく苦手としているロープワークを必要に迫られて駆使していたことが印象的であった。

守る会の安全を図る為には、危険な事は一切手を出さないというのも一策である。しかしながら、多少の困難な事にチャレンジすることにより、更にレベルの高い安全に対する知識や技術が習得できることは事実である。又、それによりチームワークや人間関係の絆も強くなるであろう。

実は、これこそが保全活動の安全を図る為には最も大事な事と考える。

隣にいるルールを無視した人に遠慮なく忠告し、教えることが大事です。守る会は誰とであってもこれが出来る組織で、必要ならば怒鳴り合ってもお互いの安全の徹底を図れる組織なのです。(佐野毅)

八期養成講座始まる

森林ボランティア

平成24年度「茨木市森林サポーター養成講座」が始まりました。今年も諸般の事情で九月一日開講となり、講座生は18名。来年三月までの六か月間に講座14回、作業実習10回が予定されています。守る会から5名のアシスタントが応援しています。



八期講座開講式

来春、森林サポーターの認定を受けられた方の多くの方が「里山を守る会」に入会されることを期待しています。(田中進)

リョウブ (別名 ハタツモリ)

リョウブ科リョウブ属

豆知識

落葉高木。日本には一科一属一種のみだが、世界では64種ほど確認されている。

若葉は食用にでき、乾燥保存して飢饉に備えたりした。法令により植えさせため、「令法(リョウブ)」という名がつけられたと言われているが、その証拠は無く異論がある。

初夏には長い花軸に白い花をつける。竜虎に例え、地上に咲く虎尾(トラノオ)(草本)の花に対比し、天に咲く龍尾(リョウビ)からきた名であるという。



こちらの方が本当らしく思える。(小川卓)

活動地にも広がる被害

カシナガ対策報告

ナラ枯れの被害を守る会の活動地にも及ぼうとしているため、今年から対策に乗り出しました。

新聞報道で、飛来するカシナガをペットボトルトラップで捕獲してアタックの密度を下げれば枯死を防げることが判りました。二リットル入りのペットボトルを集めることからはじめました。目標はトラップ100基分の3、000個。会



イオンの店頭ポスター

員に依頼したほか、イオングループの2店舗が従業員や顧客に協力

を呼びかけてくれました。市の職員も届け

てくれました。目標を超える3、600個

が集まりました。カシナガの飛来をモニターしながらトラ

ップを11本のコ



竜王山でトラップ設置

投稿募集中
当会活動に因んだ内容のもの。
編集委員会宛にお寄せください。
(500字程度)

(9月1日現在) 里山センターの裏山、観察林周辺では20本以上にカシナガが穿入しましたが枯れるのは免れています。



マサアタックで枯れたコナラ

カシナガが穿入しました。トラップを設置したコナラ3本は枯れませんでした。近くのコナラの巨木がマサアタックを受けて

枯れてしまいました。対策を取らなかつた箇所でも枯れてしまいました。ピークは過ぎましたが、カシナガの活動は続いているので、観察を継続しています。



カシナガキクイムシ 右:雄、左:雌 体長5ミリ

が、ナラ枯れを防ぐのに効果があることがわかりましたが、より頻繁に観察してアタックの初期にトラップを付けるべきだったなどの反省すべき点もありました。

(橋爪新太)

倶楽部紹介

(山菜クラブ)



『棚田の草刈り』 9月16日(日)、会員4名で、毎年、山菜を採らしてもらっている千提寺の棚田で草刈りをしました。

まずは、刈払機の刃を交換して作業をスタート。現地は、竹や草が鬱蒼と茂っていて、棚田の畔を刈る人とタラの木の群生地を刈る人に分かれて作業しました。タラの木がすっかり成長して背が高くなって

ので、来春、新芽を採るには、事前に木を切つて萌芽更新させる必要があります。

お昼になり、雲行きが怪しくなってきたので、作業を終了し、機材を車に積んでいと雨が降ってきました。(林孝治)

(ネイチャークラフト倶楽部)



これまでであるようで無かったネイチャークラフト倶楽部が発足しました。農業祭の時は新しい作品が無く、毎年同じ作品を出展する状況でした。これからのいろいろな作品にチャレンジし、その中から農業祭や作品展に出展出来るようにしたいと思います。又

作品制作に専念出来るよう制作環境を整備していきたいと思えます。

クラフトに興味のある方、お待ちしています。あらゆる分野の講師・先生をお招きし、倶楽部の充実を図りたいと思えます。ご存知の方はご紹介ください。(安原昭義)

7年目に入った私たちの活動にあたり、「もう一度、初心に返って勉強する時期である」、「勉強会無き団体は衰退する」というスローガンを掲げた『守る会自主講座』が、9月30日からスタートしま

自主講座開講へ

す。今回の講座は、まず運営委員の勉強会として進めます。運営委員それぞれが講師となり、経験を積みながら、それぞれのブラッシュアップを図ります。講師体験が一巡した頃から、会員の皆さんの勉強会として展開し、将来は、一般募集した守る会新入会員の基礎講座として、また同時に、市民の皆さんを対象としたオープン講座として定着させ、守る会の発展に繋げたいと思っています。(太田仁)

※台風17号の影響により10月28日開催となりました。

編集後記

新聞では、復興に不満と住み慣れた故郷に帰れない事に失望感が広がっていると報じています。



がんばろう！日本！

先日、被災家庭子育て支援学習サポーター活動に参加しました。福島から引越された家族と交流し、子供達と夏休みの工作づくりをして一緒に半日すごしました。遠くの人にも近くの人のように支援の気持ちを伝えたい。(小泉美智子)

編集委員

- 板倉百合・井上真弓・宇佐文哲・小川卓
- 小川恵子・小泉美智子・佐野毅・田中進
- 二階蔵滋・松股征男・三浦瑞恵